

大島は、4キロの四角い枠にはまる。コンビニも信号もない島から来た異星人に見えるのか、宗像の人たちから様々な質問を受ける。他の市民にはない問いであらう。

曰く、雨で船は出るのか？ここまでどうやって来たか？車はフェリーで持ってくるのか？帰りの船はあるか？時化ていないか？泊まる所はあるのか？お巡りさんは居るのか？医者は居るのか？心配なく、大概の時化でも船は通うし、海上タクシーもある、緊急時にはドクターヘリも来る。何せ福岡県8つの有人島では一番大きく位置的にも有利な所なのである。

他の島から来た人が、こんな大きな島なら何でも出来る、と羨ましがった事もある。もっと大きな長崎五島の人は、こんなに空港や高速道や、新幹線に近く便利な島なのに、なんでみんなは住まないのか？と不思議がついてた。

近年あちこちの島が、橋で結ばれて便利になった。長崎県を例にしてみよう。西の端の生月島から橋を渡ると平戸島に続く、更に進むと長崎県である、本土に着いたと思ってしまうが、只の九州島なのである。どんな進んで我々が福岡県を

抜けると山口県、本州である。しかし、である。ここさえも島なのだ。広大な北海道も島なのである。

なーんだみんな同じなんだ。その先端の少子化高齢化過疎化を、いち早く体感しているのが、我々のような小さな島の住民である。尊敬に値すると思いませんか？

少し沖の海原に目を向けてみよう。北海道中と呼ばれた大陸への航路であった海域である。大昔アジア大陸と日本は、繋がっていたという。その為か、大島から朝鮮半島に至る対馬海峡は最深120mしかない。深い日本海をロシア沿岸から1500kmを吹き渡った北東のうねりは、急激に浅くなる玄界灘で盛り上がり高波と呼ばれる。これがいわゆる「一に玄界と呼ばれる荒海である。

このただ中にある沖ノ島には、次回触れる事として「先ず、さようなら。



塩爺 かわべ けんじ 河辺 健治

1947年10月24日生まれ。大島で生まれ、大島で暮らし、ここで終わる。宗像高校、放送大学卒。元海上保安官、元漁師、元役場職員、元大島村長。現在塩爺

Furagu News

だれかのチカラになりたい 市民活動・ボランティア体験プログラム リニューアル

市民活動やボランティアを始めてみたい、興味がある人に向けたプログラムです。冊子には市内で活動する市民活動団体の取り組みが記載されており、気軽に団体の活動を体験することができます。希望に応じてスタッフも同行しますので、一人だと不安という方でも安心して参加できます。10月にリニューアルした冊子が完成しますので、興味のある方はお気軽にNPOセンターへお越しください。

問い合わせ窓口 宗像市市民活動・NPOセンター／平日8:30~17:00(土日祝休み)
TEL:0940-36-0311



宗像特産品 プレゼント コーナー

あまちゃん食堂「あなごのかき揚げ丼ペアチケット」が当たる！

右記QRコードまたはURLからアンケートに答えていただいた人に抽選で、あまちゃん食堂で食べられる「あなごのかき揚げ丼ペアチケット」をプレゼント！次号のふらぐと一緒にお届けします。 <http://urx.red/XXYU>



応募締切は2019年10月31日(木)アンケートはこちら!!

新鮮な海の幸を堪能できる、あまちゃん食堂

あまちゃん食堂は昨年7月、海女発祥の地である鐘崎漁港に開店しました。地域おこし協力隊として活躍する海女のお二人自らが提供するあなごのかき揚げ丼はプリプリでフワッフワ！かき揚げはタレか塩のお好みでお楽しみください。



【あまちゃん食堂】宗像漁業協同組合鐘崎本所前(宗像市鐘崎778-5)
【営業日】日曜日(毎月第2日曜日を除く)【営業時間】10:00~14:00
【問合せ先】0940-62-1500(宗像漁業協同組合)

この世界には
ロマンがある

子どもも親も一緒に楽しむ
河東小学校おやこの会

目からの
うろこ!

漫画第6話

自分の 特技を知るの巻

- ▶島から見た宗像 第二話 **大反響!**
- ▶ひととまちとの交差点Vol. 06
- ▶「市民活動・ボランティア体験プログラム」リニューアル

あなごの かき揚げ丼

ペアチケット
が当たる!!

詳しくはウラ面を
ご覧ください。



今回参考にさせていただいた団体です

参考団体の紹介
一般社団法人 PENTAGON

宗像市市民活動・NPOセンターは
2019年4月から「むなかた市民フォー
ラム」に代わり「PENTAGON」が
運営をしています。NPOや市民活
動団体の中間支援として相談窓口
の開設、市補助金事業のサポート、
講座や研修講師の他、本紙「ふら
ぐ」の編集などを行っています。
NPO法人設立や理事の実務経
験、会計、Webサイト管理経験な
ど、それぞれのスタッフがもつ強みを
生かして活動しています。



団体メンバー

問い合わせ先
住所／福岡県宗像市久原180番地
メイトム宗像 宗像市市民活動・
NPOセンター
TEL／0940-36-0311
E-MAIL／info@pentagon67.com

NPO豆知識
自分の特技の見つけ方

「私にはこれといった趣味もない
し、特技なんて…」と思っているそ
このあなた!そんなことはありません。
ふーちゃんのように、自分の特
技は自分では気づきにくいものな
のです。特技がわからないときは身
近な人に「私ってどんな人?」と聞
いてみましょう。自分では気づい
ていない特技がきっと見つかります。
また特技には「自分が自然に楽し
めるもの」がヒントになります。ぜひ
参考にしてみてくださいね。



ひとまちの交差点

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきつかけを、ふらぐ編集部がしきようが取材してきました。



ふらぐ編集部
しきよう



市と島民と共に耕作放棄地再生の話し合い



開拓した畑で今後について打ち合わせ



「仕事の枠を越えて地島で活動する土建屋さんがいる」という情報を得たふらぐ編集部。紹介してもらったのは上八に事務所を構え、沖ノ島や大島、玄海島、相島など多くの島で土木建築を行っている笑顔の素敵な井上憲司さん。どんな交差点を渡ってきたのでしょうか？

しきよう：井上さんこんにちは。地島ではどんなことをしているんですか？

井上さん：敷を切り開いて開墾しています。今は行政や島の人達と一緒に島らっきようを作っていますよ。

しきよう：土建屋さんなのに開墾？どうしてそんなことを？

井上さん：昔から島に住む人は半農半漁で自給自足の生活をしていたんですが、人が減って畑や道が藪に飲まれるようになってイノシシが増えて、特産品の芋も食い荒らされてしまったんです。畑を再開しようにも、年寄りばかりだからなかなか開墾もできない。そんな状況の島に何かできることはないかと、島や行政の人と話していました。だつたらうちにはトラクターや機材があるから、それで開墾した畑を島の人で耕しませんかという事になって、イノシシが手を出さない島らっきようを作ってみることにしたんです。ゆくゆくは島の若い人たちの臨時収入にでもなつていたらいいと思っています。

しきよう：井上さんは上八出身ですよ。他の島にも出入りしているのに、なぜ地島にそんなに精力的なんですか？

井上さん：地島は第二の故郷のようなものなんです。親の代からいろんな島で土木工事をさせてもらってるんですけど、24歳の時自分が初めて携わった仕事が地島小学校の工事でした。島には中学のときの同級生もいたので、泊まり込みで工事作業していたときは同級生の家族がおかずをくれたりとてもかわいがってくれました。逆にうちの事務所に島の子ども達がバイトにきたり、今でも近くに来たときは訪ねてきてくれたり、ずっと昔から島の人と家族ぐるみで付き合ってきています。だから島に元気がなくなってきたり、何かやりたいというか、やつて当たり前なんですよね。これは他の人にはわからない感覚だと思います。

しきよう：畑の他に、藪に埋もれた民宿施設を掘り起こして使えるようにしたり波止場の整備をしたりと、ボランティアで動かれることも多いそうですね。島の人の反応はどうですか？

井上さん：みんな喜んでくれています。行政の方も協力的ですし、島の人も「うちの藪も畑にして」と前向きです。島でできることを模索する中で島に愛着を持つ人や企業が増えたり、若い人も帰ってきたりして、輪が輪を呼んでいるな

いのうえ けんじ
井上 憲司さん
兄弟経営「株式会社 井上組」の弟



先代から上八で(株)井上組を家族経営している。島の港湾土木が得意で、第二の故郷地島のこともなんでもこいの精通者。地島を元気にするためにさまざまな取り組みを企て奔走中。

と感じます。僕は自分のトラクターを島に持ち込んでいるんですけど、それも事情を知った近所の方がおさがりを譲ってくれたからなんです。金銭ではなく、みんな験担ぎというか、お互い様の心で動いています。みんなが寄ってきて協力しあっているのが嬉しい。周りからは「どうしてお金にならないことをするのか」と首をかしげられますけど、信頼関係が生まれて結果的に仕事を頼んでもらえたりしますから、それで充分です。

しきよう：これからやっていきたいことは？

井上さん：天然の釣り堀とか里芋作りとか、島のためにできることはどんどんやっていきたいです。何でもまずは小さく試験的に始めてみて、続けられそうだったら続ける。何事も楽しんでやらんとですね。

”あなたにとっての交差点は、どこですか？”

”長い年月をかけて醸成された地島人の愛情そのものです”



子どもも親も一緒に楽しむ 河東小学校おやこの会

行って
きました!

ふらぐ編集部
アンドウさん



地域や学校行事のサポートだけでなく、河東小学校の子どもたちのために毎年さまざまなイベントを企画している保護者サークル「おやこの会」。働くお父さんお母さんが中心メンバーとなって活動を続ける背景には一体何があるのか。

受け継がれる教えと子どもたちへの想い

キャンプ、釣り大会、城山登山・・・おやこの会がイベントを企画する時に大切にしている教えがある。それは「食育」と「自立」。例えば、釣り大会。ただ子どもたちと一緒に釣りを楽しむだけでなく、釣った魚はさばいて調理して食べる。魚をさばくのも調理をするのも子どもたち。大人はやり方を教えたらあとは見守る。「遊びを通じてさまざまな生きる術を教え、子どもたちに経験させることで、自立する力を身につけてもらいたい」。おやこの会が企画するイベントにはそんな想いが込められている。

「その教えと想いは、『遊びの達人教室』からずっと受け継がれているんです」と初代表の巖津さん。遊びの達人教室は、子どもたちが遊びを通じて心身を鍛錬し明るく生きる力を養うことを目的に、河東小学校保護者OBが2005年に結成したサークル。時代とともに形を変えながらも、その教えと想いは、巖津さんや現代表の谷口さんらが活動する「おやこの会」へと長く受け継がれている。

ふむ
ふむ



自分の特技を生かして活動を楽しむ

おやこの会のメンバーは、ほとんどが働くお父さんとお母さん。遊びの達人教室と同じように活動を続けるのは負担が大きかった。そこで当代表だった巖津さんは「現役世代でも気楽にできることからやろう」と自分たちが無理なく活動できる形の運営に変えた。「キャンプはやりたいね」「野菜を育てることならできるかも」「イベントは毎月じゃなく2ヶ月に1回にしよう」。メンバー同士で話し合いながら、今の自分たちができることから活動を始めたという。

会では新しいメンバーを受け入れる時に「おやこの会でやりたいこと」を聞くようにしている。「長く活動を楽しんでもらうためにも、メンバーの気持ちを最初に聞き、それが実現できるような活動にしたい」と谷口さん。他にも、新たにコミュニケーションツール「Slack」

を導入したり、活動について話し合う場を設けたりするなど、メンバー間のコミュニケーションをととても大切にしている。

また、メンバーはそれぞれ自分の特技や得意分野を生かすことで活動を楽しんでいるという。「野菜づくりが得意な方は、進んで畑仕事をしてくれます。年1回の釣り大会の時だけ来るメンバーもいますよ。釣りが大好きな方なので、その時は人一倍活躍してくれます。自分の強みが生かせる時に頑張ってくれたら、それでいいんです」と巖津さんと谷口さんは笑顔で話す。

すごい!



変わらないもの、変えていくもの

「河東小学校PTAや河東地区コミュニティ運営協議会と連携しながら、一緒にイベントを開催する機会を増やしていきたいですね」と谷口さん。また、「誰が代表やメンバーになっても活動が無理なく継続できるよう、運営体制も整えていきたい」と今後の展望を語ってくれた。

受け継がれる教えと想いは変わらないが、運営の形はメンバーのことを第一に考え柔軟に変えてきたおやこの会。こうして“人”を大切にしてきたからこそ、おやこの会が実施するイベントは子どもだけでなく親も一緒になって楽しめるのではないだろうか。



懇親会&誕生日会



海釣り大会の様子



みんなで野菜を育てる

プロフィール 宗像市立河東小学校「おやこの会」

初代表 巖津 知也さん(左) 代表 谷口 省三さん(右)

河東小学校の保護者がメンバーとなり、親子で楽しめるイベントを企画・運営。また、地域や学校行事のサポートをしながら保護者間交流を深め、子どもたちを見守る活動もしている。活動4年目。メンバーは現在19名。



今回の取材も
勉強になりましたか?



勉強になりました!

